A WORKING CHRONOLOGY OF THE LIFE OF BRONISŁAW PIŁSUDSKI

(1984, JAPAN)

This chronology has been compiled by the members of the project "Interdisciplinary Studies of Cultures to the North of Japan on the Basis of Bronisław Piłsudski's Northern Material" made possible by a grant from the Ministry of Education, Japan.

The office of the project is located in the National Museum of Ethnology, Suita-shi, Osaka 565 Japan.

58

1863 ユゼフ・ヴィンツェンティ・ピョトル・ピウスツキ（父,1833-1902），ビルレヴィチ家の従妹マリア（母,1842-1883）の領地
4.11(23) テネニエで結婚式を挙げる。
旧暦（新暦）

［井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキ」(1)（『えぞみ』12，昭58.10.15，p.24，30）；安井亮平「二葉亭とピルスーツキー」（『スラヴ学論集』1，昭41.7.　，p.34）］

1866 リトワのZułówにて誕生

10. 9(21) 名門士族の長男（第三子）
旧暦
（新暦） シフェンチャヌイ郡

10人兄弟
［安井亮平「二葉亭とピルスーツキー」（『スラヴ学論集』1，昭41.7.　，p.34）；井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキ」(2)（『えぞみ』12，昭58.10.15，p.24］

1877 ギムナジウム入学

9. ［井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキ年譜」］

1885 ギムナジウムを中退してペテルブルグへ留学

8. ［井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキ年譜」］

1867 弟ユゼフ(クレメンス)誕生

23(12.5) [木村毅「ヨーゼフ・ピルスーツキイ」(『五人の革命家』講談社, 昭47・5・24, p.175); 井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキ」(二)(『えぞみ』12, 昭58・10・15, p.24)]

1874 大火災のあと首都Wilnoへ31,越し

7. [井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキ年譜」]

火事で焼けだされ,貧苦と借財を背負,ウィルナに移住

[木村毅「ヨーゼフ・ピルスーツキイ」(『五人の革命家』講談社, 昭47・5・24, p.175)]

1886 ペテルブルグ大学法学部入学

9. [井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキ年譜」]

1887 ペテルブルグにて逮捕される.

3. 1(13) アレクサンドル三世暗殺未遂事件に連座[宮崎平「二葉亭とピルスーツキー」(『スラヴ学論集』1, 昭41・7 p.34)]

サハリン流刑15年の刑

~~15年の流刑(上記宮井論文, p.34~~

死刑の判決をうけ減じられて

友人に頼まれて,ヴィリノに薬品を入手に来たメンバーに部屋を提供し,人をひきあわせる役取りをつけた[東部シベリアのキレンスクへ][和田春樹『ニコライ・ラッセゼフ』13 5年の流刑(宮井吉平「二葉亭とピルスーツ

上, 講談社, 昭48・2

Пилсудский

Нужды и потребности сахалинских гиляков

«Записки приамурского отдела Императорского русского географического общества» 1 - 38
т. IV, вып. IV, с. ~~33-34~~
Хабаровск, 1898

1887 樺太アレクサンドロフスク着

8. 以後10年間(途中恩赦で三分の二に減刑)を国事犯として通す

? ~~出獄後は~~ルイコフスコエ村~~の測候所を管理~~
農業植民地ルイコヴォ村 に送りこまれる.
[和田春樹『ニコライ・ラッセル—国境を越えるナロードニキ』上, 中央公論社, 昭48・2・28, p.311; 井上紘一「ブロニスワフ・ピウスツキ」(一)(『えうみ』9, 昭56・2・5, p.105-106; Геген Торун «Лев Штернберг» М., 1975, с.25.]

1899 ブラゴヴェシチェンスクへ移転

居住登録を納し, ウラジヴォストークの博物館に勤務

~~刑期満了~~
[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

北樺太でギリヤークに接し，ギリヤークの少年の教育に従事するかたわら，ギリヤークの風習と言語を研究する。この下シュテルンベルクと知り合い，その依頼によってギリヤーク語の表記を自分のものと比較し~~たり~~，また後には自分の集めたギリヤーク語の研究資料を彼に提供した。[服部健「シュテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク——民話と習俗』桜書房，昭31・6・30，p.152-153)]

ギリヤーク人少年は後にウラジオストックの学校に通うようになり，ピウスツキの経営するアイヌ人学校の第一号教師になった。[B. Pitsudski a Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore» Cracow, 1912, p.XII.]

1896 南サハリンの
コルサコフ(大泊)へ移転

測候所の勤務

樺太アイヌの研究に転ずる。

初めてアイヌに接する[B. Pitsudski a Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore» Cracow, 1912, p.VIII.]海路で南樺太に向う)

大泊山下町のあたり

[服部健「シュテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク——民話と習俗』桜書房，昭31・6・30，p.152)]

1901 脱出途上のゲェイチと会う

(「土地総割替」グループの中心人物の一人)

[和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロードニキ』上，中央公論社，昭48・2・28，p.311.]

1901? -1903 三冬期間 ~~ナイブ~~ 内淵で千徳太郎治に
ロシア語を教授[葛西猛千代『樺太土人研究資料』昭3・10・30，p.13]
~~内淵~~ 北海道の村落から引き揚げてきた日本語をよくするアイヌ少年

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」下(『朝日新聞』夕刊，昭58・7・22)]

1902
-1903

ロシア科学アカデミーからサハリン原住民の資料収集を委嘱され，南サハリンのアイヌ調査を行なう．

1902年夏 作業開始

[B. Piłsudski «Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore» Cracow, 1912, p. VIII.; 服部健「シェテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク——民話と習俗』稿書房，昭31·6·30，p.153)]

1903 タライカ村で集中的に民俗調査を進め

1. [B. Piłsudski «Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore» Cracow, 1912, p. XIII.]

[B. ピウスツキ，北海道ウタリ協会札幌支部アイヌ語勉強会訳「樺太アイヌの言語と民話についての研究資料〈3〉 ごうまんな女性を懲らす由来話」«解説»(『創造の世界』48，昭58·11·1，p.116)]

1902
-1905

国際中央・東アジア調査協会ロシア委員会の委員長，アカデミー会員V·ラドロフと書記L·シェテルンベルク博士から総額約225ルーブルの資金を受けとる．

[B. Piłsudski «Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore» Cracow, 1912, p. VIII.]

1903 フヌプ村へ移動して調査を続ける

1月下旬
-2月

[B. ピウスツキ 北海道ウタリ協会札幌支部アイヌ語勉強会訳「樺太アイヌの言語と民話についての研究資料〈3〉 ごうまんな女性を懲らす由来話」«解説»(『創造の世界』48，昭58·11·1 p.116)]

1902-1903	樺太アイヌのいくつかのコタンでアイヌ子弟のための学校を開設[B.Piłsudski «Materials for Study of the Ainu Language and Folklore» Cracow, 1912, p.XIII. コルサコフの監獄長官より二千餘圓の金を出させる[能仲文夫「親鸞聞法事蹟を兄に持つ盲目の差メノ述く」(『北海道新聞(樺太アイヌの足跡)』北海堂書店, 昭58・2・25, p.10]; 井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」下(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・22)]
1903年前後	ロシア科学アカデミーから受け取った調査費で蓄音機と蝋管をウラジヴォストークで購入 [井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」下(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・22)]

1903	友人 W. Sieroszewski と北海道旅行
6. -9.	ロシア地理協会の依頼で北海道アイヌの調査 同協会の副会長 P. セミョノフが仲介の労をとる [B. Piłsudski «Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore» Cracow, 1912, p. IX.] 胆振管内白老町 [「樺太アイヌ詩刻んだロウ管 長旅終え北大着」(『北海道新聞』朝刊, 昭58・7・5]
1903	一箱分の蝋管をペテルブルグに送る [井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」下(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・22)]

1903 長男誕生(木村助蔵)

かねて同棲していた留長バフンケイの姪エサンマとの間に生まれる

東海岸の相浜の海辺、相川という川のほとり

[服部健「シェチルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク——民話と習俗』榆書房, 昭31・6・30, p.153, 154)]

1904? 愛郎漁場下のアイヌ人による8名のロシア人惨殺事件に関与する

[高西猛千代『樺太土人研究資料』昭3・10・30, p.60

1904 ユゼフ・ピウスツキ, 日本に来着

7・8 [木村毅「ヨーゼフ・ピルスーツキイ」(『五人の革命家』講談社, 昭47・5・24, p.173)]

? 日本にいたのは8月－11月の3週間

[安井亮平「二葉亭とピルスーツキー」(『スラヴ学論集』1, 昭41・7・ , p.32)]

1904-1905 北サハリンのウイルタ(オロッコ), ニヴフ調査を行なう

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

1904 7.9 ユゼフ・ピウスツキ，東京の下町でドモウスキと出会い，翌朝彼の宿を訪ね，延々9時間にわたり議論する．

〔木村毅「ヨーゼフ・ピルスーツキイ」（『五人の革命家』講談社，昭47・5・24，p.206）〕

Сведения о Пилсудском (на основании писем к секретарю Комитета).

«Известия русского комитета для изучения средней и восточной Азии в историческом, археологическом лингвистическом и этнографическом отношениях» №2. с. 18-19, СПб., 1904.

1904 7.13 ユゼフ・ピウスツキ，林董ロンドン公使の紹介状をもって外務省を訪ね，川上俊彦に覚え書きを手交する．

〔木村毅「ヨーゼフ・ピルスーツキイ」（『五人の革命家』講談社，昭47・5・24，p.206）〕

1905 春 単身でサハリンを去り大陸へ向かう

アムール川下流域でウリチを調査し，ウラジオストークで政治活動を行った．

〔井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上（『朝日新聞』夕刊，昭58・7・21）〕

1905 R. ポチェフスキイ(Р. Почевский), ピウスツキに書簡(露文)を送る.

5. 14 ? [Manuscript H9: PAN 4646 t. 3, pp. 202-203]

1905 サハリンから小舟で脱出し函館に上る.

6. 一日本人の義侠により帝動輸船に乗って[服部健 エテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク——民話と習俗』榆書房, 昭31.6.30, p.154)]

6月初め 日本人によるサハリン占拠の一月前に大陸へ(旧暦) 脱出.

[Тригони, М.Н. После Шлиссельбурга. «Былое», 1906, No. 9, с. 52.]

1905 神戸のラッセルのもとにやってくる

10月初め頃か [和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロードニキ』上, 中央公論社, 昭48.2.28, p.311]

1905 9.13 ニコライ・ロ・マトヴェーエフ，ペテルブルグより ピウスツキに書簡（露文）を送る。

[manuscript H9: PAN 4646 t.2, pp. 132-133]

1905 長女誕生（キヨ）

9. [服部健「シェチルンベルクとピウスツキ」（『ギリヤーク——民話と習俗』榆書房，HB31.6.30, p.154)]

17

1905 10.21 Владимир Тихонович Кузьмин ~~Włodzimierz Kisewetter~~，ペテルブルグより ピウスツキに書簡（露文）を送る。

[manuscript H9: PAN 4646 t.2, p.76]

1905? 10.22 ニューヨーク，ブルックリン滞在中に，東京朝日新聞社角付下長谷川辰之助に，『ポーランド社会党通報』第1年第2，3号（日刊，«Вестн. Польской социалистической партии» Краков, 1905, 2-3）を送る。

[『早稲田大学図書館紀要別冊1 高野長英・二葉亭四迷資料——目録・解説・翻刻——』早稲田大学図書館，昭7.4.20, p.201-207.]

1905 N. ブルガロフ(Н. Булгаков), ハバロフスクからピウスツキに書簡を送る.

11.8 [Manuscript H12 PAN 9394 Reel No.12, p.179]

1905 ウラジヴォストークへ渡る

11月下旬 [和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロード』下, 中央公論社, 昭48.5.10, p.45]

1906 東京へ去る

1月下旬頃 [和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロード』下, 中央公論社, 昭48.5.10, p.89]

1906 二葉亭四迷の死を訪れる

はじめ [和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロード』下, 中央公論社, 昭48.5.10, p.124]

1905 ヴラディヴォストークでトリゴーニと会う
(「人民の意志」党執行委員会のメンバー)
11.13(26) [和田春樹『ニコライ・ラッセル—国境を超えるナロードニキの下』, 中央公論社, 昭48・5・10, p.45; Тригони, М.Н. После Шлиссельбурга. «Былое», 1906, №9, с.52.]

1906 二葉亭四迷, 銀座と曲館屋のビクスッキに電報を打つ.
1.27 «Ne mogu itti hasegawa»
[Manuscript H9: PAN 4646 t.1, p.45]

Письмо командированного на о. Сахалин Б.О. Пилсудского (на имя секретаря Комитета).

«Известия русского комитета для изучения средней и восточной Азии в историческом, археологическом, лингвистическом и этнографическом отношениях» №5, с. 25-30, СПб., 1905

1906 夜
神田三崎町吉田屋で開かれた片山潜の帰国歓迎会に出席し, 加島汀月の通訳で演説する.
2.6 席上, 幸徳秋水夫人千代子から絹手巾に老梅を描いて贈られる.

日汀語で演説

[「同志と運動 ・片山潜氏歓迎會」(『光』1-7, 明39・2・20, p.7. 『明治社会主義史料集』第2集として復刻, 明治文献資料刊行会, 昭35・12・23)]

1906 2.10 K・トリイ，東京からビウスツキに書簡（ローマ字表記の日本文）を送る［manuscript H3: 48-200, Reel No.3, p.50］

1906 2. 「北海道土人教育会主任・米国文学博士」小谷部全一郎より名刺を受け取る。
［manuscript H9: PAN 4646 t.2, pp.158-159］

1906 2. ~~長谷川辰之助~~を幅田美子に紹介する。
二葉亭四迷
［幅田美子「二葉亭四迷氏逝く」（『世界婦人』37, 明42.6.5, p.1 『二葉亭四迷全集』9所収，岩波書店，昭40.5.26, p.324）］

1906 3-4月 東京大学の人類学教室で坪井正五郎博士の研究談を傍聴した帰り，~~長谷川辰之助~~二葉亭四迷と共に天神町の伏龍館に横山源之助を訪ねる［横山天涯氏談「長谷川君の志士的才面」（『新小説』14-6, 明42.6, p.278-279］
2-3月 夕暮
湯島の天神
お成道の西洋料理店で夕食を共にした後，横山の下宿で談話
［横山源之助「真人長谷川辰之助」（坪内逍遙・内田魯庵編『二葉亭四迷 各方面より見たる長谷川辰之助君及其遺族』冨山房，明42.8.1, p.1215-216）］

1906 2.22 K.ソミヤ，横浜からピウスツキに書簡（不正確な露文）を送る．

[Manuscript H4: 1-177, Reel No.4, pp. 54-55]

1906 2.25 「新紀元」の晩さん会に出席し，一同と写真撮影を行なう）[「新紀元業会」（『新紀元』6，明39.4.10，p.23]

最初の紹介者は ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷

神田小川町の牛屋，「いろは」 ~~「常盤」~~ 又は「常盤」

[石川三四郎「ピルスツスキイの想ひ出」（『月刊ロシヤ』5-11，昭14.11.1.『石川三四郎著作集』6に所収，青土社，昭53.4.10，p.280)]

神田駿河台のすき焼屋「いろは」

[『石川三四郎著作集』8所収口絵写真，青土社，昭52.10.10]

午後，

1906 3.10 芝区北橋の大光亭で宮崎民蔵の仲介で宋教仁と会見．

[和田春樹『ニコライ・ラッセル―国境を越えるナロードニキ』下，中央公論社，昭48.5.10，p.190-191.]

1906 中国革命同盟会の活動家と会う）

3. 宮崎滔天兄弟と民報社の中国革命家に会う）

黄興，宋教仁ら他多くの中国人および宮崎民蔵，滔天，他の日本人にかこまれて記念撮影をする．

[和田春樹『ニコライ・ラッセル―国境を越えるナロードニキ』下，中央公論社，昭48.5.10，p.108, 126, 191.]

1906. 3. 13 モリタ・リョウコ, 函館屋のピウスツキに葉書(露文と英文)を送る.

[Manuscript H9: PAN 4646 t. 2, pp. 144-145.]

1906 3. 23 ? N. ラッセル, ホノルルからピウスツキに書簡(露文)を送る ?

[Manuscript H4: 1-177, Reel No. 4, pp. 28-30.]

1906 3. 13 モリタ・リョウコ, 函館屋のピウスツキに葉書(露文)を送る.

[Manuscript H9: PAN 4646 t. 2, pp. 144-145.]

1906 3. 30 H. ヨコタ, 本郷よりピウスツキに葉書(仏文)を送る

[Manuscript H4: 1-177, Reel No. 4, p. 109.]

1906? 3.15 (消印)

コウコ(Kouko), 横浜より「東京市京橋区尾張町二丁目凾館屋オ」のピウスツキに葉書(ロシア文字表記の露文・邦文混交)を送る.

[manuscript H9:PAN 4646 t.2, pp.93-94.]

1906 初め

「浦潮の某新聞」(ポドパーフが当時発行していた「ウラヂオストーク新報」か)の求めで, ~~長谷川辰之助~~(実理は井田孝平)と共同で『舞姫』を翻訳する話が結局実現せず.

[二葉亭四迷「書簡 274 日付不明(明治39年2-7月)(封なし) 井田孝平へ」(『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 昭40・3・26, p.361)]

1906 3.21

F.ミツザワ(女性)の写真を贈られる.

[manuscript H3:48-200, Reel No.3, pp.54-55]

1906 4.3.

上海から来た18歳の留学生 Ro-Nan-Woo(呉弱男)概念)

翌日 彼女は葉書とともに,自分と姉・呉亜男の写真と『The Twentieth Century Liberty Bell』を,~~送ってくる~~「神田,三崎,三ハー,秋徒」よりピウスツキに送る.

[manuscript H4:1-177, Reel No.4, pp.22-23; 和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロードニキ』下, 中央公論社, 昭48・5・10, p.192.]

1906 ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 に封書を送る

4. 5 「ポーランド革命家の消息」

[安井亮平「『二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡』[翻刻・訳]」(一)(『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45・3・p.81-82.);『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学図書館所蔵 二葉亭四迷資料集——目録・解説・翻刻——』早稲田大学図書館, 昭40・4・20, p.197.]

1906 ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 に葉書を送る

6. 17 「会えぬ断り」

[安井亮平「『二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡』[翻刻・訳]」(一)(『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45・3・p.82-83.);『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学図書館所蔵 二葉亭四迷資料集——目録・解説・翻刻——』早稲田大学図書館, 昭40・4・20, p.197.]

1906 ラッセル, 長崎で露字新聞『ヴォーリャ』を出しはじめる.

4. 14(27)

[和田谷樹『コンライ・ラッセル——国境を越えるナロードニキ』下, 中央公論社, 昭48・5・10, p.109-110.]

1906 ~~かとう博士宅に~~ 横浜の平民病院院長・加藤時次郎 に食事に招かれる(予定)

6. 20

[安井亮平「『二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡』[翻刻・訳]」(一)(『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45・3・p.82)]

1906 4. 横山源之助,「露国革命婦人」(リュドミーラ・ヴォルケンシチェイン一代記)を『女学世界』4月号に発表.

[和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロードニキ』下,中央公論社,昭48・5・10,p.129.]

1906 N. ラッセル,ピウスツキに書簡(露文)を送る.

6. 24

[Manuscript H4:1-177, Reel No. 4, pp. 31-33]

1906 5. - 6. 横山源之助,「露国の七命婦」(ラッセル一代記)を某雑誌(雑誌名不明)5,6月号に分載.

[和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロードニキ』下,中央公論社,昭48・5・10,p.129-130.]

1906 6. 母親が電報でパリ経由で500ないし1600ルーブリ送金したものゝ,受け取られず,戻ってもこず.[安井亮平「露二業者田逸宛ピウスツキ書簡[翻訳・訳](一)」(『早稲田大学図書館紀要』10,昭45・3・ ,p.91)]

長崎のCregateの住所(『ウォーリヤ(自由新聞)』の住所)宛

結局戻ってきた

[同上,p.94]

日付不明 1906.1-6 キミ・エンドク・イマイ，ピウスツキに書簡（ローマ字表記の邦文，ポーランド語訳の試みあり）を送る．

[Manuscript H9: PAN 4646 t.2, pp. 74-75.]

1906 7.11 加藤（時次郎），東京，新宿より長崎 稲佐 志賀才のピウスツキに葉書（独文）を送る．

[Manuscript H9: PAN 4646 t.2, pp. 72-73.]

1906 長崎へ行く

7. [和田春樹『ニコライ・ラッセル――国境を越えるナロードニキ』下，中央公論社，昭48.5.10，p.131.]

1906 7.11 C. A. Гарфункель，横浜の The Club Hotel より長崎 稲佐 志賀才のピウスツキに書簡（露文）を送る．

[Manuscript H9: PAN 4646 t.1, pp. 17-19]

1906 7. 6 ?

M. ヤマグチ, ピウスツキに書簡(露文)を送る.

[Manuscript H4: 1-177, Reel No. 4, pp. 106-107]

1906? 7. 12

U. グンジ, ピウスツキに書簡(露文)を送る.

[Manuscript H9: PAN 4646 t. 1, p. 42]

1906 7. 10

R. ミツザワ, ピウスツキに書簡(露文)を送る.

[Manuscript H9: PAN 4646 t. 2, pp. 141-143]

1906 7. 16

キリーロフ博士の手紙を落手.

[安井亮平「戴二業事田連花ピウスツキ書簡[翻刻]」(『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45.3. , p. 83)]

1906 長崎 稲佐 志賀才より ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷に
7. 17 葉書を送る
同便下文集ズナーニエ七一巻（クプリーンの『決闘』所載）送る

~~志賀親朋~~

「キリーロフ博士の消息」

○中央公論社, 昭48・5・10, p.111; [和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロードニキ』下, 安井亮平「『二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]』(一)（『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45・3・ p.83-84）; 『早稲田大学図書館紀要別冊1 島崎藤村・二葉亭四迷資料——目録・解説・翻刻——』早稲田大学図書館, 昭40・4・20, p.(97)]

1906 遠藤 清, 東京赤坂区桧町十 [城倉才] より, 長崎市稲佐 志賀才のピウスツキ
7. 17 に書簡（英文）を送る

[Manuscript H9 PAN 4646 t.1, pp. 9-12]

1906 Л. П. Пограх と の間の «Домашнее условие» を執筆
7. 27

[Manuscript H3: 48-200, Reel No.3, p.158.

1906 横浜を離れる（予定）

7. 28 [安井亮平「『二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]』(一)（『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45・3・ p.83-84）]

22

1906 ? 7. 19 上田柳(『東京日日新聞』の記者,『ゲンゴロウ』の東京での予約購読や広告の多数を引き受けた)が, C. ケイ, ピクスッキに書簡(露文)を送る.

[Manuscript H9: PAN 4646 t. 1, pp. 64-65.]

1906 高雄 日

7. 30 横浜をたつ

長崎から米国汽船で帰国の途につく
[和田春樹『ニコライ・ラッセル——国境を越えるナロードニキの下』, 中央公論社, 昭48. 5. 10, p. 131.]

1906 汽船 Monteagle 号で長崎を発つ(予定).

7. 23 [安井亮平「露二葉亭四迷宛ピクスッキ書簡[翻刻・訳]」下)(『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45. 3. , p. 83)]

1906 二葉亭四迷, ピクスッキに書簡(露文)を送る.

8. 1

[Manuscript H9: PAN 4646 t. 1, pp. 43-44.]

1906 11月末-12月初

«Kraków, Topolowa 二葉亭四迷 16»
~~クラクフ~~から~~長谷川辰之助~~に封書を送る。同使下ポーランドその独立に関する問題を記したアンケートを二部送付，『クリチカ』誌の号。[安井亮平「曩二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]，(一)(『早稲田大学図書館紀要』10，昭45・3，p.92-9
二葉~~長谷川~~の他，大隈が島田等の回答を希望[同上(二)(同紀要11，昭46・6・，p.30)]
「ポーランド文学の紹介依頼」
[『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学図書館所蔵二葉亭四迷資料—目録・解説・翻刻—』早稲田大学図書館，昭40・4・20，p.197]

1906 9.12

二葉亭四迷
シカゴから~~長谷川辰之助~~に葉書を送る
絵
「アメリカでの生活」

[安井亮平「曩二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]，(一)(『早稲田大学図書館紀要』10，昭45・3・，p.84)；『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学図書館所蔵二葉亭四迷資料—目録・解説・翻刻—』早稲田大学図書館，昭40・4・20，p.197.]

1906 11月末-12月初

二葉亭四迷
クラクフから~~長谷川辰之助~~に封書を送る（封のみ現存）

[安井亮平「曩二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]，(一)(『早稲田大学図書館紀要』10，昭45・3・，p.16-100)]

1906 10. オーストリア領ポーランドKraków着
(ガリツィア)

[安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(一)(『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45・3・p.89);井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

1906 12. 4? N.ラッセル,長崎・オウラ・カタオカ2より ピウスツキに書簡(露文)を送る.

[Manuscript H4:1-177, Reel No.4, pp. 35-36.]

1906 11. 21 "Austria, Krakow, Turzyma dla B.P—m ~~クラクフから~~ 二葉亭四迷 ~~長谷川辰之助~~ Ul. Szujska 7. M. に封書を送る(長文の)
「ポーランド文学の日本への紹介」ポーランド・日本協会設立に対する協力依頼」

[安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(一)(『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45・3・p.84-92);『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学図書館所蔵二葉亭四迷資料—目録・解説・翻刻—』早稲田大学図書館, 昭40・4・20, p.117]

ビルスドスキー
~~うちに~~上田将訳[安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(一)(『早稲田大学図書館紀要』10, 昭45・3・p.91)]
「樺太アイヌの状態」(上)・(下)

『世界』26 p.57-66
27 p.42-49

東京日報社 明39. 「樺太アイヌの直接受けピウスツキの情報によるもの」(井上紘一「ブロニスワ

1907 1. 二葉亭四迷 ~~長谷川辰之助~~ にセロシェフスキー作品集二巻（露訳）を送る［宮井克平「二葉亭四迷の ロシヤ人・ポーランド人との交渉」（『文学』 -8, 昭41·8 , p.23）］
8月19日 ~~長谷川~~ 二葉亭 落手.
［二葉亭四迷「日記・手帳二 明治四十年」（『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 昭40·3·26, p.21）］

1907 ? 上田 博 ~~M. クニク~~, 東京より ピウスツキに葉書（露文）を送る.
7. 1
［Manuscript H9: PAN 4646 t.1, p.64］

1907 2. 3. N. ラッセル, 長崎・オウラ・カタオカズより ピウスツキに書簡（露文）を送る.
［Manuscript H4: 1-177, Reel No.4, pp. 137-140.］

1907 に献辞を書く 7. 15 二葉亭四迷に送る ~~長谷川辰之助に~~ セロシェフスキ作品集二巻 ~~を送る~~［宮井克平「二葉亭のロシア語蔵書」（清水茂編『二葉亭四迷』角川書店, 昭42·6·30, p.351-352）］
12月28日 ~~長谷川~~ 二葉亭 落手
「（彼より5冊 受取る）」
［二葉亭四迷「日記・手帳二 明治四十年」（『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 昭40·3·26, p.26）］

1907 二葉亭四迷，ポリワーノフの『志士の末期』を『世界婦人』4,5,6,9,11,15号に訳載.
2.15
-8.15

1907 長崎の 米露熱帯農業株式会社（Американско-русское акционерное товарищество тропического хозяйства），ピウスツキに案内状を送る.
7.7/24
?

[Manuscript HIZ: PAN 9394, Reel No.12, pp. 169-171.]

1907 ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 ロシアから ~~長谷川~~ に封書を送る（封筒は現存せず）[安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)（『早稲田大学図書館紀要』11, 昭6.　, p.26-31)]
5.10
6月19日 ~~長谷川~~ 二葉亭 落手.[二葉亭四迷「日記・手帳に明治四十年」（『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 0.3.26, p.20)]「書籍入手依頼」
[『早稲田大学図書館紀要別冊1 露国留学生二葉亭四迷資料——目録・解説・翻刻——』早稲田大学図書館, 昭40.4.20, p.197]

1907 幼馴染のマリヤと結婚
夏頃 [安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)（『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46.6.　, p.31)]

1907 ～11)]

7月18日付で ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 が送った鷗外『舞姫』を受けとる[宮井克平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)(『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46・6・ ,

雑誌『国の光』と『舞姫』を送る

二葉亭 ~~長谷川~~ の最初の手紙[二葉亭四迷「日記・手帳二 明治40年 五月十八日」(『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 昭40・3・26, :0)]

F. W. イーストレーフによる英語版(彩雲閣, 明40・2).

[宮井克平「翻刻 二葉亭四迷訳『舞姫』(鷗外)」(『早稲田大学図書館紀要』16, 昭50・3・ , p.38)]

1907 ～)]

ザコパネから ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 に葉書を送る

9. 9

シェロシェフスキの本を二冊送ったことを伝えている[宮井克平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)(『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46・6・ ,p.31

10月17日 ~~長谷川~~ 二葉亭 消息[二葉亭四迷「日記・手帳二 明治40年」(『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 昭40・3・26, p.23)]

「結婚及び消息通知」

[『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学図書館所蔵二葉亭四迷資料——目録・解説・翻刻——』早稲田大学図書館, 昭40・4・20, p.197]

1907

妻がペテルブルグの親戚に出かける(予定)

10月上旬

ポーランド作家の露訳を集めて ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 に送り,『ルースコエ・ボガッストヴォ』,『ミール・ボージイ』等の雑誌の寄稿者や編集者と,日本,日本の文化,生活,社会の潮流等々について原稿を書きたいという ~~長谷川~~ 二葉亭 の計画について協議するため[宮井克平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)(『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46・6・ p.37)]

のみならず,ピウスツキに代ってロシア国内のナロードニキと連絡を取るため[宮井克平氏]

1907

N. ラッセル,長崎・オウラ・カタオカ2より

10.17

ピウスツキに書簡(露文)を送る.

[Manuscript H4:1-177, Reel No.4, pp. 41-42]

1907 9.20? Владимир Тимаевич Кузьбеммер, ヴラヂヴォストークよりピウスツキに書簡（露文）を送る.

[Manuscript H9: PAN 4646 t.2, pp. 79-81.]

1907 10.17. 二葉亭四迷，ピウスツキより葉書（9月9日付ザコパネ）を受け取り，直ちに返事を出す.

[二葉亭四迷「日記・手帳ニ 明治四十年」（『二葉亭四迷全集』7，岩波書店，昭40・3・26，p.23）]

1907 10.5 ザコパネから ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭 に封書を送る

8月21日付の ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 の第二信（長文の）を受け取る

[二葉亭四迷「日記・手帳ニ 明治四十年」（『二葉亭四迷全集』7，岩波書店，昭40・3・26，p.22）]

~~マリヤ夫人~~ 妻の写真を同封

10月30日 ~~長谷川~~ 二葉亭 落手[安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(一)（『早稲田大学図書館紀要』11，昭46・，p.32-39）]「ポーランド文学の紹介依頼及びその候補作品リスト，ポーランドの国内事情」（『早稲田大学図書館紀要別

1907 10.24-11.6 «Zakopane, Kru- 二葉亭四迷 pówki» から ~~ザコパネから~~ ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 に封書を送る

[二葉亭四迷「日記・手帳ニ 明治四十 二葉亭 年」（『二葉亭四迷全集』7，岩波書店，昭40・3・26，p.22）]

9月15日付の ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭 の手紙（第三信）に対する返信

12月10日，二葉亭落手，返信せず.

同使下「ポーランドの日本の友から ポーランド人の日本の友へ Л. ワシリェフスキ」と上書きしたポーランドについての本を送る（独訳）[安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)（『早稲田大学図書館紀要』11，昭46・6・，p.39-45.）]

「『ロシアの富』への協力の意向歓迎 并編集同人の条件」[『早稲田大学図書館紀要別冊1 書簡目録篇 二葉亭四迷資料—目録・解説・翻刻—』早稲田大学図書館 昭46・4・30，p.100]

1907 11.16 イズミヤ・ヒョウヰチ, 大連よりクラクフ・Topolowa 16 のピウスツキに葉書(英文)を送る.

[Manuscript H1: PAN 4646 t.1, pp. 62 - 63.]

1907 12. 6 Zygmunt Klemensiewicz, クラクフ?よりピウスツキに書簡(ポーランド文)を送る.

[Manuscript H1: PAN 4646 t.2, pp. 82 -]

1907 二葉亭に: シェロシェフスキとシマンスキの小説の独訳本二冊, ワシレフスキの現代のガリツィヤ, シマンスキの小説の独訳と露訳各一冊を送る.

[安井亮平「『二葉亭四迷』宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)(『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46・6・ , p.46)]

1907 12.10 «Zakopane, Kru~~ゴパート~~から~~K谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 pówki 78» に対書(露文)を送る.

ボドバフから手紙を落手

「原稿依頼。自作のロシア語翻訳を勧む。」

[安井亮平「『二葉亭四迷』宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)(『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46・6・ , p.46-52);『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学図書館所蔵 二葉亭四迷資料 —目録・解説・翻刻—』早稲田大学図書館, 昭50・4・20, p.198]

1907 10月10日付で[二葉亭四迷] ~~[K谷川辰之助]~~ が送った(木下)尚江『良人の自白』二冊を受けとる[安井亮平「露二葉亭とピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)(『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46・6・46, 52.)]

~~[K谷川]~~ [二葉亭] が10日朝入手したし。

[二葉亭四迷「日記・手帳二 明治四十年 十月十日」(『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 昭40・3・26, p.23)]

1907 12.18 二葉亭四迷, アンチンスキーの第一信に対し返信を出し, 同使で『カルコ集』(1907年12月刊)を送る.

(雑誌『日ロシアの富』編集部のジャーナリスト)

[二葉亭四迷「日記・手帳二 明治四十年 十二月十八日」(『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 昭40・3・26, p.26); 安井亮平「二葉亭四迷の日ロシア人・ポーランド人との交流」(『文学』 -8, 昭41・8・ , p.25)]

アンチンスキー, 1908年1月20日(2月2日)落手.[安井亮平「露二葉亭四迷宛諸家欧文書簡[翻刻・訳]」(『早稲田大学図書館紀要』14, 昭48・1・ , p.79)]

1907 ザコパネから[二葉亭] ~~[K谷川辰之助]~~ に葉書を送る

二葉亭, 返信せず.

11.21 『ルースコエ・ボガストヴォ』の編集部が~~[K谷川]~~[二葉亭四迷]を同誌の寄稿家とみなし, 今後~~[K谷川]~~宛て雑誌を送る, との知らせを受け取る[二葉亭].[安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」(二)(『早稲田大学図書館紀要』11, 昭 , p.45-41)]

「『日ロシアの富』編集部も承諾し, 今後同誌編集同人として遇す。」

[『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学所蔵二葉亭四迷資料—目録・解説・翻刻—』早稲田大学図書館, 昭40・4・20, p.198]

1907 二葉亭四迷, ピウスツキに葉書を送る.

12.28 [二葉亭四迷「日記・手帳二 明治四十年」(『二葉亭四迷全集』7, 岩波書店, 昭40・3・26, p.26)]

Pl. 14

Отчет Б. О. Пилсудского по командировке к айнам и ороком о. Сахалине в 1903-1905 гг.

«Известия русского комитета для изучения средней и восточной Азии в историческом, археологическом, лингвистическом и этнографическом отношениях» №7, с. 20-52, СПб., 1907.

1908 1. 22

Л. П. ポドバフ、横浜からピウスツキに書簡（露文）を書く

[Manuscript H4:1-177, Reel No.4, pp. 1-3]

Pl. 14

Пилсудский Б. О.

Краткий очерк экономического быта айнов на о. Сахалине.

«Записки общества изучения Амурского края», ~~СПб.,~~ 1907, т. 10, стр. 89-157. Владивосток.

1908 1. 30

二葉亭

ザコパネから~~長谷川辰之助~~に葉書を送る。

1907年12月18日付の~~長谷川~~の葉書を受け取る（二葉亭四迷「日記・手帳二 明治四十年」（『二葉亭（二葉亭四迷）四迷全集』7，岩波書店，昭40・3・26，p.26））「原稿の督促。ポーランド誌『スフィンクス』は今後貴兄を編集同人と認む。」

[安井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]」（『早稲田大学図書館紀要』11，昭46・6・ ，p.53-54）；『早稲田大学図書館紀要別冊1 図書館所蔵二葉亭四迷資料—目録・解説・翻刻—』早稲田大学図書館，昭40・4・20，p.198]

1908 ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷に シェンケヴィチの小説（初期の作品）とミッケヴィチの『コーンラド・ヴァレーンロド』とスモレンスキの『ポーランド国民史』の三冊を送る

1. 14 いずれも露訳

[安井亮平「『二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]』(二)（『早稲田大学図書館紀要』11, 昭6. , p.54）]

1908 ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷, アンドレイ・ネモエフスキの『愛』を『帝国婦人』23号に訳載

3. 5

1908 マリナ 妻が ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷に ジェロムスキ, ネモエフスキ, コノプニツカ, プルースの小説(現訳)を送る

1. 22 ~~ジェルムスキ, コノプニツカ 短篇集（露訳）~~

[安井亮平「『二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]』(二)（『早稲田大学図書館紀要』11, 昭6. , p.54）]

1908 «Zakopane, Kru- ~~ザコパネ~~ から ~~長谷川辰之助~~ 二葉亭四迷 pówki 78» に封書を送る

3. 9 M. ズィフ『剣を想う』の本による露訳（二枚）を同封

4月17日 ~~長谷川~~ 二葉亭 落手

「ポーランド文学の紹介依頼」

[安井亮平「『二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡[翻刻・訳]』(二)（『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46. , p.54-58）; 『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学ーゆかりの作家たち』—に

1908 二葉亭四迷，ボレスラーフ・プルースの『様々ミハイロ』を『世界博人』24号に訳載
4. 5

Poród, ciąża i poronienie u tubylców wyspy Sachaliniu.

«Głos lekarzy» pt. 1-2 str.
Lwów, 1908.

1908 R. ミツザワ，クラクフのピクスツキに絵葉書（露文）を送る．
ザコパネに転送？
[Manuscript H9: PAN 4646 t. 2, pp. 142-143]

1909 土曜日 ~~二葉亭四迷~~
マリヤ夫人，~~K谷川辰之助~~・ベイナル・ピオトロフスカヤとともに コムミサル ジェルフスカヤ劇場へ行く
1. 17(30)

[二葉亭四迷「日記・手帳二 明治四十二年」(『二葉亭四迷全集』7，岩波書店，昭40・3・26，p.70)]

1908 フランスへ留学

学位取得のため

推析

[井上紘一「ピウスツキ光の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58·7·21)]

Szamanizm u Ajnów na Sachalinie.

«Wieczory Polskie» str. 327-350
Lwów, 1908.

34

1909 «Austria Lwow 二葉亭四迷 ul. Tureska 3.» から ~~ルヴォフから~~ ~~長谷川辰之助~~ に葉書を送る.

6.1 「病気見舞」

[宇井亮平「露二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡(翻刻・訳)」(『早稲田大学図書館紀要』11, 昭46·6, p.58-59.)『早稲田大学図書館紀要別冊1 早稲田大学図書館所蔵二葉亭四迷資料—目録・解説・翻刻—』早稲田大学図書館, 昭40·4·20, p.198]

Der schamanismus bei den Ainu-Stämmen von Sachalin.

«Globus» bd. 45 nr. 5 SS 72-78,
Braunschweig, 1909.

Das Bärenfest des Ajnen auf Sachalin. « Globus » bd. 96 nr. 3 SS. 37 - 41, nr. 4 SS. 53 - 60, Braunschweig, 1909.	著者	✓ Пилсудский Б. [О.] Аборигены о. Сахалина. « Живая старина », СПб., 1909, вып. 3, стр. 3 - 17 「前論文と同一内容」[井上紘一「アロ＝スワフ・ピウスツキ(一)(『えぞ』)」, 昭56・2・5, p.109)]
Na niedźwiedziem święcie u Ajnów z wyspy Sachaliniu. « Sfinks » t. 7 zesz. 21 (?) str. 206 - 221, t. 8 zesz. 22 str. 106 - 113, zesz. 23 str. 299 - 309, zesz. 24 str. 489 - 501, Warszawa. 1909.	原(題)	L'accouchement, la grossesse et l'abortement chez les indigènes de l'île Sakhaline. « Bulletins et mémoirs de la société d'anthropologie de Paris » t. 10, pp. 692 - 699 Paris, 1909.

	Szamanizm u tubylców na Sachalinie. «Lud» t. 15 zesz. 4 str. 261-274, Lwów, 1909.	1910 ロンドンで開かれた英日博覧会で，北海道の沙流地方から来た男女四人ずつの計八人に会い，50以上の物語を記録する． また，コレージュ・ド・フランスの音声学の教授ルスロ司祭の調査によって，書き取りのチェックをす [B. Piłsudski «Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore» Cracow, 1912, p. XIV - XV.]
	Die Urbewohner von Sachalin. «Globus» bd. 46 nr. 21 SS. 325-330, Braunschweig, 1909.	Szamanizm u tubylców na Sachalinie. «Lud» t. 16 zesz. 2 str. 117-132, Lwów, 1910.

Bevölkerung Sachalins

«Anthropos» bd. 5 hft. 4 ss. 566-567

Wien 1910

Poezja Gilaków.

«Lud» t. 17 zesz. 2-3 str. 95-123,
Lwów, 1911.

Schwangerschaft, Entbindung und Fehlgeburt bei den Bewohnern der Insel Sachalin (Giljaken und Ainu).

«Anthropos» bd. 5 hft. 4 ss. 756-774

Wien 1910

Materiały do języka i folkloru Ajnów.

«Sprawozdania akademii umiejętności» nr. 3
str. 3-5,
Kraków, 1911.

マイクロ室	Пилсудский Роды, беременность, выкидыши, близнецы, уроды, бесплодие и плодовитость у туземцев о. Сахалина. «Живая старина» вып. 1-2, с. 22-48, СПб., 1910.		Айну. «Новый энциклопедический словарь Брокгауза и Ефрона» т. I, стр. 599-603, СПб., 1911.
1911 -1913	ザコパネ Muzeum Tatrzańskie 勤務 (タトラ博物館) ガリツィア南部の保養地 地元の山地民研究 [井上紘一「ピウスツキの復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]		W sprawie zjazdu etnografów polskich «Lud» tom 17, str. 267-269, 1911

B. Pilsudski 述
鳥居龍藏 訳

「樺太島に於ける先住民」

『人類學雜誌』第27巻第2号 p.83-89
3号 p.163-167
4号 p.226-232.

明44・5・20, 6・20, 7・10

民 博 ✓

Ainu folk-lore by Bronisles Pilsudski

«Journal of American Folklore» vol. 45, pp. 72-86, New York, 1912.

1912 Hem

Trąd wśród Gilaków i Ajnów.

«Lud» t. 18 str. 79-91, Lwów, 1912.

Les signes de propriété des Aîno.

«Revue d'ethnographie et sociologie» t. 3 pp. 100-118, Paris, 1912.

φ0

別置
GJ
1992

✓ Pilsudski

Materials for the study of the Ainu language and folklore.

ed. under the supervision of J. Rozwadowski.

Kraków, XXVIII + 242 pp., 1912.

当時の最も有力な言語学者の一人 Jan Rozwadowski 教授監修(修)の書 [p. XXIII.]

Prace Rosyjskiego towarzystwa geograficzn

« Lud » t. 18. str.
Lwów, 1912.

Bronisław Piłsudski

Materials for the Study of the Ainu Language and Folk-lore.

« The Athenaeum » Nr 4449
1912.

[Materiały biblio- i biograficzne dotyczące braci Bronisława i Józefa Piłsudskich, p. 2.]

1913 スイス留学

抜粋

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

民博 ✓ Bronislaw Pilsudski

The Gilyaks and their songs.

«Folk-Lore» vol. 24 nr. 4, pp. 477-490, London, 1913.

Bronisław Piłsudski

Collectaned. The Gilyaks and their Songs.

Nadbitka z "Folk-Lore" vol. XXIV No 4, December 1913. ss. 477-490.

[Materiały biblio- i biograficzne dotyczące braci Bronisława i Józefa Piłsudskich, p. 2]

1914 第一次大戦必至の気配を察してウィーンへ逃れる

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

1915 スイス滞在

中立国

戦争難民の救援やポーランド独立のための広報活動に従事

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

1914 クラクフの科学アカデミー民族学部門
書記に就任

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

マイロ室 ✓ Пилсудский

На медвежьем празднике айнов о. Сахалин

«Живая старина» вып. 1-2. с. 67-162

СПб., 1915

1914 ベルギーのブルッセルで石川三四郎と再会

6月末

[石川三四郎「亡国民の俳句」(『新日本』4-12, 大3・10・)
同「ピルスツスキイの想い出」(『月刊ロシヤ』5-11, 昭14・11・1). 以上共に『石川三四郎著作集』6に所収, 青土社, 昭53・4・10, p.272-273, 281-283]

Muzeum Tatrzańskie imienia d-ra T. Chałubińskiego w Zakopanem.
Zadania i sposoby prowadzenia działu ludoznawczego.

Kraków, 1915.

1916

Almen - Viehzucht im Tatra-Gebirge in Polen.

«Archives suisses des traditions populaires» t. 20 SS. 1 - 12 (separatum). 1916.

1918 5. 21

午前8時15分
セーヌ河のミラボー橋のたもとで水死体となって発見される。

遺体はパリ北方のモンモランシーにあるポーランド墓地に眠っている。

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21); NHKテレビ「樺太アイヌ・ろう者物語」昭59・6・25]

B. Ginet - Pilsudzki

Les croix lithuaniennes.

«Archives suisses des traditions populaires» t. 20 pp. 1 - 13 (separatum) 1916

Polacy w Syberji.

Le-Puy, Francja, 36 str. 1918.

1917年末 パリに流れつく
1918年初

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

Polska w kulturze powszechnej. Dzieło zbiorowe pod redakcją Feliksa Koneczneg. Część Ogólna. Staraniem i nakładem Polskich Spół. Oszczędności i Pożyczek, pozostających pod patronatem Galicyjskiego Wydziału Krajowego Kraków 1918. Krakowska Ekspozytura Biura Patronatu dla Spółek Oszczędności i Pożycze /cm 24 x 16/ str. XXIII, 419.
/(w artykule Jana Grzegorzewskiego "Działalność Polaków na Bałkanie i na dalszym Wschodz. na s.177 wzmianka o Józefie Piłsudskim i

1918 パリにて自殺

5.17 [井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」上(『朝日新聞』夕刊, 昭58・7・21)]

1918 パリの客舎で不慮の死を遂げる.
[服部健「シュテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク—民話と習俗』榆書房, 昭31・6・30, p.155)]

Polska w kulturze powszechnej. Dzieło zbiorowe pod redakcją Feliksa Koneczneg. Część Szczegółowa. Staraniem i nakładem Polskich Spółek Oszczędności i Pożyczek, pozostających pod patronatem Galicyjskiego Wydziału Krajowego. Kraków 1918. Krakowska Ekspozytura Biura Patronatu dla Spółek Oszczędności i Pożyczek. /cm 24 x 16/ str. XXV, 649.
/(w artykule St. Pawłowskiego i E. Romera "Geografia i podróżnictwo" na s.174 wzmianka o Wacławie Sieroszewskim i Bronisławie Pil

Krzyże litewskie.

«Krzyże i kapliczki przydrożne» (Biblioteka "Orlego Lotu" nr. 3) str. 1-21, Kraków, 1922.

1921

W sprawach Muzeum Tatrzańskiego.

«Rocznik Podhalański» nr. 1, str. 147-188, Kraków - Zakopane, 1921.

1924 ユゼフ・ピウスツキ元帥，日露戦争に参加してまだ存命の高級将校21人に勲章を贈る。川村景明(日本人)元帥(鴨緑江軍軍司令官)にはポーランド最高の勲章ビルチェチ・ミリタリを贈る。

[木村毅「ヨーゼフ・ピルスーツキイ」(『亡人の革命象』講談社，昭47・5・24，p.232.)]

1922 春 ユゼフ・ピウスツキ，ワルシャワで国際連盟事務局次長の新渡戸稲造と会見する。

[木村毅「ヨーゼフ・ピルスーツキイ」(『五人の革命家』講談社，昭47・5・24，p.164]

1922 キヨと樺太アイヌ大谷熊吉の間に長女ミドリ誕生

[服部健「シェテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク——民話と習俗』樹書房，昭31・6・30，p.154)]

1929 ? 樺太東海岸の白浜部落に，ポーランド人の婦人が日ソ人通訳を連れて遺児を捜しに来るが，キヨは会わ~~なかった~~ず。

[金田一京助「樺太便り」(『東京朝日新聞』昭4・　　]

1930 ザコパネで，ピウスツキが住んでいた家の主人が屋根裏から蝋管を発見。ワルシャワの東方研究所に渡す。

[知里春樹「アイヌに生きた流浪の学者」(『読売新聞』夕刊，昭58・7・2)]

1931 キヨと大谷熊吉の間に(次女)ナミ誕生

[服部健「シュテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク——民話と習俗』榆書房, 昭31・6・30, p.154)]

1936 チェフサンマ 死.

[NHKテレビ「樺太アイヌ・ろう者秘話」昭59・6・25]

1935 エサンマ 死

[服部健「シュテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク——民話と習俗』榆書房, 昭31・6・30, p.154)]

1971 長男 助蔵, 富良野で死

[NHKテレビ「樺太アイヌ・ろう者秘話」昭59・6・25]

1983 62本の蝋管, ポーランドのポズナニ大学から日本に到着.

7. 3

[井上紘一「ピウスツキ兄の復権を」下(『朝日新聞夕刊, 昭58・7・22)]

北海道大学

1936 キヨと大谷熊吉の間に瞳(三女) ~~(キヨ)~~ 誕生

[服部健「シェテルンベルクとピウスツキ」(『ギリヤーク—民話と習俗』榆書房, 昭31·6·30, p.154)]

1984 長女キヨ 死. 79歳

1. 4

[NHKテレビ「樺太アイヌ・ラッコ管秘話」昭59·6·25]

Pieśni liryczne Gilaków (ze spuścizny rękopiśmiennej wydał W. Kotwicz).

«Rocznik orientalistyczny» t. 12 str. 159-175 Lwów, 1936.

年月不明 ニコライ・ニ・マトヴェーエフ, ピウスツキに書簡(露文)を送る.

[Manuscript H9: PAN 4646 t. 2, p. 133]

A WORKING BIBLIOGRAPHY OF WRITINGS ABOUT BRONISŁAW PIŁSUDSKI IN JAPANESE

(1984, Japan)

This bibliography has been compiled by the members of the project "Interdisciplinary Studies of Cultures to the North of Japan on the Basis of Bronisław Piłsudski's Northern Material" made possible by a grant from the Ministry of Education, Japan.

The office of the project is located in the National Museum of Ethnology, Suita-shi, Osaka 565 Japan.

(1)

国会図書館 1-152
井上氏

◯ ~~ブロニスラフ~~ ビルスドスキー
~~うえだ~~ 上田 将 訳
「樺太アイヌの状態」(上)・(下)

『世界』26 京華日报社 p.57-66. 明39.
27 p.42-49. 明39.

井上氏
基督,中大図,
(国大図2)国図

◯ B. ピルスツキ著
和田 完 訳
「樺太の原住民」(ドイツ語より)

『北アジア民族学論集』5集 23-34頁
金沢 昭43.

サ=
55
27

◯ B. Pilsudski 述
鳥居龍蔵 訳
「樺太島に於ける先住民」
(『Die Urbewohner von Sachalin』より)

もう一つの雑誌にも掲載

『人類学雑誌』第27巻2号 83-89頁,
3号 163-167頁,
4号 226-232頁
明44.5.20, 6.20, 7.10.

明治44
『北斗』2-6 ページ 28-36
2-7 2-7
2-8 37-41
世界, 北斗と

◯ B. ピウスツキ(一)
北海道ウタリ協会札幌支部アイヌ語勉強会訳
「樺太アイヌの言語と民話についての研究資料
1. 序文
2. 伝承や神祭りの由来話 魔よけ木幣の由来話
3. ごうまんな女性を懲らす由来話
4. 海豹島の出現にまつわる由来話
5. ウイルタとの戦いに敗けた由来話
6. 〃

知田氏

知田文治郎訳
抄
「樺太アイヌに伝わる昔話」

『北方日本』15-2　100-107頁

昭18.

○

○

『創造の世界』46　p.99-119, 47　p.112-142
48　p.116-133, 49　p.134-147
50　p.118-139, 51　p.98-118

昭58.5.1, 8.1, 11.1, 昭59.2.1
5.1, 8.1,

②

サル
81
7

㋐ブロニスラフ・ピルスツキ著
知田光訳

「樺太アイヌのシャーマニズム」
(«Der Schamanismus bei den Ainu-Stämmen von Sachalin», 1901 より)

『北方文化研究報告』第16輯　179-203頁

北海道大学　昭36.3.25

「同志之運動
●片山潛氏歓迎會」

『光』1－7　　7頁

明39・2・20

大府 915 『明治社会主義史料集』第2集より復刻
明治文献資料刊行会　　昭35・12・23

「新紀元集会」

『新紀元』第6号　　23頁

明39・4・10

大府 915 『明治社会主義史料集』第3集より復刻
明治文献資料刊行会　　昭36・3・23

◎二葉亭四迷

「日記・手帳
明治四十年，四十二年，
發病當時體温日記」

『二葉亭四迷全集』第七巻　20, 21, 22, 23, 26, 31, 70, 86頁
第八巻　332, 335, 336, 337, 339, 340, 393, 414頁
岩波書店　　昭40・3・26

◎二葉亭四迷

「書簡
明治四十年，書簡草稿」

『二葉亭四迷全集』第七巻　361, 400頁

昭40・3・26

[p.361は「明治39年2-7月」の誤り]

久津見蕨村（長崎新報記者）

？「露国の革命家」

『光』1-12　　p. 5

光線誌社　　明39・5・5

国文資料室『明治社会主義史料集』第2集 vol 7 復刻
明治文献資料刊行会　　昭35・12・23

◎二葉亭四迷

「露國文學断片」

『太陽』　　明40・4・

『二葉亭四迷全集』第五巻　　207頁

昭40・1・26

◎二葉亭四迷

「書簡
明治三十九年」

『二葉亭四迷全集』第七巻　　353-4頁

昭40・3・26

◎二葉亭四迷

「明治四十一年一月賀詞交換名簿」

『二葉亭四迷全集』第九巻　　76頁

昭40・5・26

◎二葉亭四迷

「文壇を警醒す」

『太陽』　明41・2・

『二葉亭四迷全集』第五巻　240頁

昭40・1・26

◎池邊吉太郎君談

「『朝日新聞』に於ける長谷川君」

『太陽』15-8　134頁

明42・6・1

◎ネモエフスキイ
二葉亭四迷訳

「愛」

『世界婦人』23　p.6　明41・3・5

『日本社会主義史料集』別冊(1)として復刻　明治文献資料刊行会　昭36・6・23.

『二葉亭四迷全集』第四巻　232頁

昭39・12・23

◎横山天涯氏談

「長谷川君の志士的方面」

『新小説』14-6　279-280頁

明42・6・

~~/福田英子~~

「日本協會と本誌」

『世界婦人』23　　p.7

世界婦人社　　明41・3・5

L4-判111.9 『明治社会主義史料集』別冊(1)として復刻
明治文献資料刊行会　　昭36・6・23

◎福田英子

「二葉亭四迷氏逝く」

『世界婦人』37　　p.1.　　明42・6・5
『明治社会主義史料集』別冊(1)として復刻
明治文献資料刊行会　　昭36・6・23
『二葉亭四迷全集』第九巻に所収　　324頁

昭40・5・26

◎二葉亭四迷

「文藝坐談」

『キヌタ』　　明41・5

『二葉亭四迷全集』第五巻　　261-262頁

昭40・1・26

/旭山生(石川三四郎)

「編輯餘録」

『世界婦人』37　　p.2

世界婦人社　　明42・6・5
『明治社会主義史料集』別冊(1)として復刻
明治文献資料刊行会　　昭36・6・23

阿部精一「北京警務學堂に於ける長谷川君」
大庭柯公「封露西亞の長谷川君」
池邊吉太郎「二葉亭主人と朝日新聞」
坪内逍遥「長谷川君の性格」
島田三郎「眞率の人」
西本翠蔭「著作に關する計畫」
魯庵生「二葉亭の一生」
十川信介「解題」 13, 20, 25, 28頁

坪内逍遥・内田魯庵編輯『二葉亭四迷 各方面より見たる長谷川辰之助君及其追懷』 上1 178,772-3, 238, 下1 111, 162, 206頁 明42・8・1
近代文学研究資料叢書(5)に17複刻 昭50・3・1

⑦

二16
2617 ⑦ 葛西猛千代

『樺太土人研究資料』

? 13, 60頁

昭3・10・30

⑦ 横山源之助

「真人長谷川辰之助」

坪内逍遥・内田魯庵編『二葉亭四迷 各方面より見たる長谷川辰之助君及其追懷』(易風社, 明42・8・1)
上1 215-220頁.
人相 341 263 「二葉亭四迷」と改題して『凡人非凡人』に収録
(新潮社, 明44・7・13) 396-402頁

051.6 Y79 3 『横山源之助全集』第三巻 293-297頁
(明治文献 昭49・9・20)

⑦ 金田一京助

「樺太便り」(柳田国男宛書簡)

『東京朝日新聞』 昭4・
『北の人』に所収
桜書房 昭9・
K10 K80 1 『心の小道をめぐって 金田一京助随筆選集1』
128-130頁
三省堂 昭39・12・1

14
2512 ㊀石川三四郎
6
「七国民の作業」

『新日本』4-12
大3・10

『石川三四郎著作集 第六巻』 272-273頁
青土社 昭53・4・10

㊀金田一京助
「アイヌ語学研究資料に就て」
「樺太方言研究資料」と改題して

サニ
14
『民族』1-4 145-146頁 大15・5・1

区(国) 829.2
K142
『言語研究』 105頁
河出書房 昭8・11・15

ホ2
936.2
1
『金田一博士古稀記念 アイヌ語研究 金田一京助選集 I』
455-456頁 三省堂 昭35・5・25

---

(8)

17
5030 ㊀能仲文夫
「親清閣陸軍大尉を兄に持つ
盲目の老メノコは泣く」

『北蝦夷秘聞(樺太アイヌの足跡)』 1-18頁
北進堂書店 昭8・2・25
『樺太アイヌの足跡』と改題して復刻
第一書房 昭58・2・5

㊀金田一京助
「アイヌ部落採訪談」

『日本民族学研究』
昭10・12

=16
2478
『採訪随筆』に収録 75, 83-84頁
人文書院 昭12・10・25
『心の小道をめぐって 金田一京助随筆選集 I』に収録

大府
11 ノ神崎 清
136
「露國 ラツセル博士
——日露戰爭と露國社會黨——」
392-393頁

『中央公論』51-6
昭11・6・1

---

①内田魯庵

「二葉亭四迷の一生
十四 露國の亡命客及びダンチエンコ」

柳田泉編『明治の作家』 192-193頁
筑摩書房 昭16・10・10

大府
320.4 ①藤井茂治
127
「波蘭志士ブリードスキーと其遺族」

『學論 奇説新學説考』所收 323-332頁
日本書荘 昭12・8・20

大府 117
139 ①金田一京助

「類話三 樺太アイヌの羽衣説話」

『アイヌの神典——アイヌラックルの伝説——』
92-98頁
八洲書房 昭18・9・30

(10)

○伊井道若人

「二葉亭とエスペラント」

岩波版八巻全集「月報」五號

昭13・

『二葉亭四迷全集』第九巻　317頁

昭40・5・26

○石川三四郎

「ピルスツスキイの想ひ出」

サイ 101 『月刊ロシヤ』5-11

昭14・11・1

44 2612 6 『石川三四郎全集　第六巻』　279-284頁
青土社　著作　昭53・4・10

=16
2855 1 ○知里真志保

「樺太アイヌの説話(一)」

『樺太庁博物館彙報』3-1
豊原　昭19・9

『知里真志保著作集 1　説話・神謡編 I』
平凡社　253, 264, 360, 366, 433-45
昭48・5・16

=16
2855 2 ○知里真志保

「アイヌの歌謡(第一集)」

日本放送協会編　昭23・4

『知里真志保著作集 2　説話・神謡編 II』
307頁
平凡社　昭48・8・24

サル
51 ⓓ知里真志保
3

「樺太アイヌの神謡」 186-187頁

『北方文化研究報告』8

昭28・3・25

ハ23 『樺太アイヌの神謡』として単行
4511 北海道郷土研究会 昭28・8・10

○

ⓓ中村光夫

「二葉亭四迷伝
戦後のロシアへ」

『群像』12-1～13-6 昭32・1・1-33・6
単行本
(講談社 昭33・12・)

講談社文庫 294, 296, 298-300頁, 昭51・9・15

○

ニ16
2844ⓓ知里真志保
2

「説話学篇集
13. 死者が送って出る話 註解」

『北方文化研究報告』第8輯「樺太アイヌの神謡」
第7話 採話・訳出とも和田文治郎による
昭28・3・

『知里真志保著作集 2 説話・神謡編 II』
452頁
平凡社 昭48・8・24

○

サル
51 ⓓ和田完
6

「樺太アイヌの偶像」 62, 65, 66, 68,
69, 72, 73, 77

『北方文化研究報告』14

昭34・3・25

◎木村　毅

「二葉亭四迷と社會主義」

『明治大正文学研究』15　p. 41-45

昭30・2・28

サト
257
1

◎高野　明

「籠二葉亭四迷旧蔵露文献目録並解題
——坪内雄蔵氏寄贈記念図書——」

『早稲田大学図書館紀要』2　p.127-128

昭35・12・20

ニ16
2596

◎服部　健

「シェテルンベルクとピウスツキ」

『ギリヤーク——民話と習俗』　144-156頁

榆書房　昭31・6・30

サイ
266
51

◎木村　毅

「ピルスーツキーと二葉亭
——ポーランド独立史の舞台裏——」

『世界』181　p.345-356

昭36・1・1

○佐藤 勝

「二葉亭と「新紀元」「世界婦人」
—福田英子との交渉をめぐって—」

『国文学 解釈と鑑賞』28-5 76-80頁

昭38・5・1

○安井亮平

「二葉亭四迷のロシヤ人・ポーランド人
との交渉」

『文学』34-8 p.22-25

昭41・8

○

『早稲田大学図書館紀要別冊1
幕末明治期二葉亭四迷資料
—目録・解説・翻刻—』

18-19, 197-198, 206-207頁

早稲田大学図書館 昭40・4・20

○書庫

○ジョージ・ケナン, N・K・ラッセル
高野明・藤家壮一訳注
「日本における日露兵士の捕虜・後記」

『早稲田大学史記要』1-3 p.119

昭41・9・1

○

◎安井亮平

「露工業亭四迷宛ポドバフ書簡〔翻刻・訳〕」

『早稲田大学図書館紀要』7　p.42,65.(,64,)

昭41・3

○

○

◎安井亮平

「二葉亭のロシヤ人との交渉
——日露戦争後を中心として——」

『日本ロシヤ文学会会報』9　p.89-90

昭41・10・28

○

○

◎安井亮平

「二葉亭とピルスーツキー」

『スラヴ学論集』1　p.31-36

昭41・7

○

長岡分
910

◎木村毅

「二葉亭四迷と社会主義」

清水茂編『二葉亭四迷』　334-344頁

角川書店　昭42・6・30

長岡分
910 ✓安井亮平

「二葉亭のロシア語蔵書」 351-352頁

清水茂編『二葉亭四迷』

角川書店 昭42・6・30

文府 577
317 ✓山本祐弘（祐利雄）

『樺太アイヌ又・住居と民具』

7, 10, 18, 23, 34, 38, 49, 56, 57, 58, 59, 84, 85, 93, 94, 114, 117, 122, 124, 126, 127, 130, 184頁

相模書房 昭45・6・30

国
080
T.82
100
✓宮崎龍介

「父滔天のこどもら」 288頁

宮崎滔天『三十三年の夢』所収

平凡社（東洋文庫） 昭42・10・10

✓木村毅

「ポーランド独立の英雄 ヨーゼフ・ピルスーツキイ」
「二葉亭とピルスーツキイ」

『五人の革命家』 P.3, 169-176, 179, 234-267 (-173, 175) (, 232, 233,)

講談社 昭47・5・24

388
25 ◎山本祐弘

『北方自然民族民話集成
—オロッコ・ギリヤーク・ヤクート・樺太アイヌ—』

p.203-206, 223-225.

相模書房　昭43・11・15

◎安井亮平

「館蔵二葉亭四迷宛ピウスツキ書簡〔翻刻・訳〕
(一), (二)」

『早稲田大学図書館紀要』 10　p.78-100
11　p.26-59
昭45・3　, 46・6

アントーニ・クチンスキ
中山昭吉・中山洋子訳

「シベリアの研究と経済発展における
ポーランド人の貢献」　76頁

『地理』17-6

昭47・6・1

71
4478 ◎I・ドイッチャー
山西英一・鬼塚豊吉訳

「革命家の生い立ち」　71, 73頁

『レーニン伝への序章 その他—遺稿集—』

岩波書店　昭47・6・28

7

(17)

サト
257
5

安井亮平

「館蔵 二葉亭四迷宛諸家欧文書簡[翻刻・訳]」

『早稲田大学図書館紀要』14　p. 68,72,77,79.(,71,)(,78,)

昭48・1・

=16
2982

知里・真志保,
山本祐弘

「樺太アイヌの生活」　16-18頁

山本祐弘
『樺太自然民族の生活』

相模書房　昭54・10・20

15
10119
2

「ピルツフスキー」

『北海道開拓記念館調査報告　第2号
民族調査報告書　資料編 I』　39頁

北海道開拓記念館　昭48・2・28

サト
257
6

安井亮平

「翻刻
二葉亭四迷『浮雲』(略外)」

『早稲田大学図書館紀要』16　p. 37,38.

昭50・3・

大府
568
4027
◎米川和夫

「日本におけるポーランド文学」
51-52, 55頁

加藤正泰・石川晃弘編『ポーランドの文化と社会』所収

大明堂　昭50・3・25

✓和田春樹

『ニコライ・ラッセル
——国境を越えるナロードニキ』上・下

「人名索引」参照

中央公論社　昭48・2・28,
5・10

=16
2855
3
◎知里真志保

「樺太アイヌの生活」　148-150頁

『知里真志保著作集　3 生活誌・民族学編』

平凡社　昭48・11・28

◎安井亮平

「二葉亭の露文書簡　ノ他」

『文学』43-9　P.90-92, 94

昭50・9・10

◎工藤幸雄

「ポーランドと日本」 182 (-183), 185-186頁

『ワルシャワの七年』

新潮社 昭52・7・15

◎井上紘一

「ブロニスワフ・ピウスツキ」(一),(二)

『えうみ』9 p.105-112,

12 p.24-36,

白馬書房 昭56・2・5, 58・10・1

14
2512 ◎
8 口絵写真
(新紀元社の人々と写した写真)

『石川三四郎著作集 第八巻』

青土社 昭52・10・10

参考室
13 ◎服部健
2286
1~2 「~~ブロニスワフ~~ピウスツキ」

『北海道大百科事典』下巻 439頁

北海道新聞社 昭56・8・20

○ 語研

Ⓐ Majewicz, Alfred F.

On B. Piłsudski's unpublished Ainu material.

『北方文化研究』 11 pp. 83-94

北海道大学文学部附属
北方文化研究施設 昭52・12・26

○

○ ル8
3148 Ⓐ 山田耕之介

「ポーランドと日本」 295頁

『ポーランドの国と人々』所収

恒文社 昭53・11・15

○

○

Ⓐ 安部一郎

「日本＝ポーランド文化交流の歴史と現状」

『日本と東欧諸国の文化交流に関する基礎的研究』
p. 10-13.

日本東欧関係研究会 昭57・4・30

○

○

Ⓐ 岡崎クリスティナ

「ポーランド＝日本文化交流の歴史と現状」

『日本と東欧諸国の文化交流に関する基礎的研究』
p. 20

日本東欧関係研究会 昭57・4・30

○

◎佐藤清郎

「二葉亭四迷と〈社会主義〉」, p.143-154

『教養諸学研究』70 ~~p.135-158~~

昭57・11・

◎

「樺太アイヌ語刻んだロウ管
長旅終え北大着」

『北海道新聞』朝刊

昭58・7・5

◎大谷特派員

「アイヌの肉声 80年の眠り
再生, 日本の技術にかけ里帰り」

『朝日新聞』

昭58・6・30

◎

「樺太アイヌ語に光」

『北海道タイムス』
?

昭58・7・5

◎

「樺太アイヌ　声が残っていた」

『読売新聞』夕刊

昭58・7・1

◎

「80年ぶり再生なるか
樺太アイヌの語り」

『毎日新聞』朝刊

昭58・7・5

◎和田春樹

「アイヌに生きた流浪の学者」

『読売新聞』夕刊

昭58・7・2

◎

「樺太アイヌ恋歌　80年ぶり目覚め」

『神戸新聞』

昭58・7・5

✓

「蝋管レコードが北大に帰ってきた」

『朝日新聞』朝刊

昭58・7・5

✓井上紘一

「ピウスツキ兄の復権を 上・下」

『朝日新聞』夕刊

昭58・7・21, 22

✓

「よみがえるアイヌの肉声」

『朝日新聞』

昭58・7・5

✓Koichi INOUE

For the Rehabilitation of Br. Pilsudski

◯ ㊀伊東一郎

「期待の樺太アイヌ語復元」

『毎日新聞』夕刊

昭58・7・6

◯ ㊀黒田信一郎

「甦れ樺太アイヌの肉声」

『日本経済新聞』 文化欄

昭58・8・3

◯ ㊀

「ピウスツキの口笛
㊁ 戦火を越えて
㊂ 波乱の人生
? 」

『北海道新聞』

昭58・7・14, 15

◯ ㊀朝倉利光
伊福部達

「ピウスツキ録音ろう管の再生と解読」

『自然』38-10 (453) p.48-53

昭58・10・1

◎斎藤君子

「ギリヤーク研究の先駆者
シュチルンベルク（ウ・1）」　12頁

『はなろうど』8

昭58・12・1

◎光田　烈記者

「甦（よみがえ）ったピウスツキろう管
80年前の樺太アイヌの録音再生
上・下」

『毎日新聞』

昭59・6・20，21

◎

「樺太アイヌ・ロウ管復元
"幻の言語"解読に成功」

『神戸新聞』夕刊

昭58・12・2

◎アルフレッド・F・マイエヴィッチ

「重要性増す文化の復元
――ポーランドのアイヌ研究――」

『朝日新聞』

昭59・6・22

(2)

「ピクスッツキの蛾管レコード
80年ぶり樺太アイヌの歌声」

『朝日新聞』

昭58・12・2

(2)

「樺太アイヌ・ろう管秘話」

NHKテレビ

昭59・6・25　放送

(2)

「よみがえった樺太アイヌの歌
NHK特集 ユーカラ・沈黙の80年」

『朝日新聞』

昭59・6・20